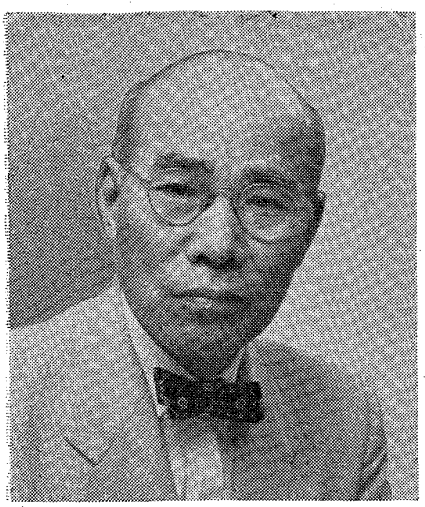

再び会長に選らばれて

会長 三 島 徳 七

小生，はからずも，このたび会員諸賢の御推挙により，15年振りに本協会の会長に再選されましたことは，まことに感慨にたえぬところで，その責任の重大なことを痛感する次第であります．このうえは愚鈍にむちうち出来るだけの努力をいたす決心でありますから，何卒会員各位におかれましても一層の御支援を賜わりますよう切にお願い申し上げます．

本協会は創立以来ここに 48 年を迎えたのでありますが，その間，二度会長に選らばれましたのは故俵国一先生（大正11年4月より同13年3月と昭和5年4月より同7年3月）と故河村驍博士（大正13年4月より同15年3月と昭和7年4月より同9年3月）とで，しかもこのお二人があいついで会長に再任され，立派な業績をあげて本協会のいしづえを築かれたのであります．私といたしましても是非この両先輩を見ならい，本協会の事業の拡大強化を実現して，今後のわが国鉄鋼業の躍進に貢献致したい念願であります．

さて，一国の工業水準も文化の水準も，鉄鋼をはじめ金属材料の発達程度によつて判断できるといわれていることは周知の通りであります．戦後目ざましき発展をとげたわが国の産業が今後一層の飛躍をとげて，はげしい国際競争にうち克つためには，その根幹となる鉄鋼ならびに各種金属材料の研究開発を推進するとともに生産技術の向上革新をはかり，もつて良品を廉価に製造供給することが絶対必要であります．従つて，斯学の研究に従事する科学技術者およびその生産技術を担当する人々，換言すればわが本協会の会員各位に課せられた責任はすこぶる重大であり，同時に国民ならびに産業界よりの期待もまたまことに大であります．

申すまでもなく，日本鉄鋼協会は鉄および鋼に関する学術，技術そのほか一切の問題を研究調査し，わが国における鉄鋼業の振興発達を期することを目的として設立されたものであつて，創立以来40余年にわたり鋭意その目的達成につとめ，今や会員数は約 8000 を数え，毎年春秋2回開催される講演大会における研究発表の数も400に迫り，会誌「鉄と鋼」の内容も先進諸国の学協会誌に比べて何等遜色なきにいたり，国内はもとより海外諸国よりも，鉄鋼の学術と技術に関しては，日本におけるもつとも権威ある団体として認めらるるに至りました．しかしながら，最近驚異的な成長発展をとげ，粗鋼生産額において世界第3位をねらわんとするわが鉄鋼業界と，科学振興の国策にそつて急速な進歩をなしつつあ

る学界との間に立つて，わが協会本来の使命を充分に果さんとするには，現在の本協会の規模と組織内容は余りにも弱体であるといわざるを得ないのであります．先年派遣された欧州鉄鋼調査団の報告にも示されている如く，西欧先進諸国においては，この種学協会の活動はきわめて積極的であり，かつその活動がその国における技術革新の推進力となっている現状であります．殊に，私は去る4月の初めに来朝中の西ドイツ鉄鋼協会々長のヘルマン・シェンク博士に面会して，親しく彼国における鉄鋼業界と同協会との密接な連けい，および同協会の事業内容と組織機構などについて詳細な実情を承り，深き感銘と大なる刺戟を受けたのであります．

このような情勢下において，わが日本鉄鋼協会としては，従来の姿から脱皮して，その機構の拡大強化と内容の充実をはかり，名実ともに世界一流の製鉄国たるわが国にふさわしき協会となり，今後におけるわが国鉄鋼業の進展に伴う任務をまつとうしたいと希つて止まぬ次第であります．

幸に本協会においては浅田前会長の御就任を契機とし，1昨年以来，上述の趣旨に基づき，企画委員会が中心となつてその具体案を研究することとなり，鋭意審議検討を重ねた結果，昨年末になつて協会の拡大強化策に対する成案を得るにいたり，遂に去る4月3日に開催された第47回通常総会においてその内容を発表するとともにこれに伴う37年度事業計画ならびに収支予算の承認決定を見た次第であります．

私はここに改めて，本協会の拡大強化案の説明を繰返すことを避けますが，本年度よりこれを実施に移すにあたりましては必ずや種々の困難に遭遇することと予想致しますけれども，役員各位と協力して万難を排して推進に努むる覚悟でであります．

よつて，会員諸賢におかれましても，何卒上述の趣旨を御了承下され，この大事業が順調に進捗いたしますよう，絶大の御協力と御支援を賜わるよう切にお願い申し上げます．